

単位取得可能な講演一覧

最新の情報は、学術集会ホームページよりご確認ください。

【6月23日（木）】

時間	会場	種別	演題名	演者	リハ 単位	現地のみ申請可	
						日整会 単位	運動器
8:40～9:40	1	基調講演	課題克服	久保 俊一	○	13,14,5,Re	○
9:50～10:50	1	知と実践 1	関節と運動器疾患のリハビリテーション医学・医療	佐浦 隆一	○	13,R	○
	2	知と実践 4	言語聴覚療法における知と実践	深浦 順一	○	13	
	7	教育 1	包括的呼吸リハビリテーションとその応用の最前線	海老原 覚	○	13	
	13	教育 5	上肢・下肢痙縮に対するリハビリテーション診療—装具療法、ボツリヌス毒素療法、手術療法—	幸田 剣	○	8,13,Re	○
	14	教育 10	身体障害者（肢体不自由）手帳診断書・意見書の書き方	西嶋 一智	○	13,14,5,Re	
11:00～12:00	1	知と実践 2	神経筋疾患のリハビリテーション医療	花山 耕三	○	8,13	
	2	知と実践 5	神経発達症児者の支援の実際	橋本 圭司	○	3,8	
	13	教育 6	脳卒中リハビリテーションにおける歩行再建 - 理論的背景とその実践 -	大畑 光司	○	13	
	14	教育 11	障害者の就労支援	菊地 尚久	○	13,14,5,Re	○
12:20～13:20	2	ランチョン 1	課題特異的練習と機械学習を用いた特徴量抽出に基づくリハビリテーション治療	長谷 公隆	○	13	
	3	ランチョン 2	脳卒中上肢機能障害に対する新しいリハビリテーション治療	藤原 俊之	○	13	
	5	ランチョン 3	一次脳卒中センターの立場から	竹川 英宏	○	13	
			回復期リハビリテーションの立場から	児玉 直俊			
	7	ランチョン 4	リハビリテーション医療と栄養に関する課題と展望～皮膚から全身状態を予測する～	井口はるひ	○	13	
	8	ランチョン 5	リハビリテーション治療の構造化への挑戦	大高 洋平	○	13	
	12	ランチョン 6	脂肪幹細胞を用いた運動器疾患の治療と研究	齋藤 琢	○	1,13,Re	
			脂肪幹細胞を用いた神経疾患の治療	崎山 快夫			
	13	ランチョン 7	回復期リハビリテーション病棟における集約的摂食嚥下リハビリテーション	重松 孝	○	13	
14	ランチョン 8	痙縮治療のプロフェッショナルを目指して	佐々木信幸	○	13		
13:50～14:50	1	会長講演	リハビリテーション医学における知と実践	芳賀 信彦	○	13,14,5,Re	○
15:00～16:00	1	特別 1	パラアスリートにみる脳の可塑性と再編能力	中澤 公孝	○	1,13,Re	○
	2	知と実践 6	理学療法における知と実践	斉藤 秀之	○	13,Re	○
	7	教育 2	回復期リハビリテーション医療の要点	園田 茂	○	13	
	13	教育 7	脳卒中急性期リハビリテーションにおける合併症の対応について	高橋 秀寿	○	13	
	14	教育 12	肩関節疾患のリハビリテーション	尼子 雅敏	○	9,13,Re	
16:10～17:10	1	特別 2	パラリンピックを通して考える共生社会～パラリンピックとリハビリテーション医学の未来～	河合 純一	○	13,S	○
	2	知と実践 7	作業療法の知と実践	中村 春基	○	13,Re	○
	7	教育 3	リハビリテーション医療と医工連携・産学連携	出江 紳一	○	1,13	
	13	教育 8	脳卒中上肢のロボットリハビリテーション	内山 侑紀	○	13	
	14	教育 13	骨転移の画像所見と安静度の考え方	篠田 裕介	○	5,13,Re	○
17:20～18:20	1	知と実践 3	摂食嚥下障害のリハビリテーション医療	才藤 栄一	○	13	
	2	知と実践 8	義肢における知の実践	野坂 利也	○	13,Re	○
	7	教育 4	心不全のリハビリテーション診療	牧田 茂	○	13	
	12	スポンサード 1	骨格筋電気刺激療法の基礎とエビデンス	森谷 敏夫	○	1,13	
			移植医療とリハビリテーション～ベルト電極式骨格筋電気刺激の活用～	佐藤 晋			
	13	教育 9	ニューロリハビリテーション手法を脳卒中中の臨床にどう生かすか	川上 途行	○	13	
	14	教育 14	がん周術期の "impairment-driven" なリハビリテーション治療	城戸 顕	○	13	

【6月24日（金）】

時間	会場	種別	演題名	演者	リハ 単位	現地のみ申請可	
						日整会 単位	運動器
8:00～9:00	1	知と実践 9	義肢装具領域における教育	浅見 豊子	○	13,Re	○
	2	海外 1	Aging and Rehabilitation: recent advances	Walter R. Frontera	○	13	
	7	海外 5	Early Rehabilitation in Critical Illness: Understanding the Evidence	Dale M. Needham	○	13	
	12	教育 22	摂食嚥下障害に対する最新のリハビリテーション診療	加賀谷 齊	○	13	
	13	教育 28	脳損傷者の自動車再開のための評価と治療戦略	武原 格	○	13,14-5	
	14	教育 36	リハビリテーション医療における様々な呼吸補助方法	土岐 明子	○	13	
9:10～10:10	1	特別 3	Toward an inclusive, accessible and sustainable world: action to advance human rights, development and peace and security by for and with persons with disabilities.	伊東亜紀子	○	13,14-5,Re	○
	2	海外 2	Rehabilitation of Motor Neurone Disease ... Malaysian perspective.	Lydia Latif	○	8,13	
	7	教育 15	リハビリテーション処方再考	角田 亘	○	13	
	12	教育 23	骨盤底リハビリテーションの進歩と実践	吉田美香子	○	13	
	13	教育 29	高次脳機能障害に対するリハビリテーション診療	渡邊 修	○	13	
	14	教育 37	脳卒中・循環器病対策基本法の下でリハビリテーション治療中の血圧を考える	山内 克哉	○	13	
10:20～11:20	1	特別 4	総合リハビリテーションを考える	上田 敏	○	13,14-5,Re	○
	2	知と実践 13	運動器スポーツ傷害のリハビリテーション医療：リハビリテーション室からスポーツ現場まで	津田 英一	○	2,13,S	○
	7	教育 16	神経可塑性を誘導する Neuromodulation のリハビリテーション医学への応用	藤原 俊之	○	13	
	12	教育 24	義肢装具におけるデジタルトランスフォーメーション	坂井 一浩	○	13,Re	○
	13	教育 30	未知なるウイルス感染症管理下の攻めのリハビリテーション医療	酒向 正春	○	13,14-5,Re	○
	14	教育 38	温泉医学とリハビリテーション医学 - 温泉を科学する -	倉林 均	○	13	
11:40～12:40	1	ランチョン 9	在宅療養中の痙縮患者に対するボツリス療法の実践	神山 一行	○	13	
	2	ランチョン 10	リハビリテーション医は骨粗鬆症治療における2次骨折予防の主役である	萩野 浩	○	4,13	
	3	ランチョン 11	神経電気刺激と筋電図バイオフィードバック	村岡 慶裕	○	8,13	
	5	ランチョン 12	回復期リハビリテーション病棟におけるカテーテル抜去に向けた取り組み ～気管カニューレ、膀胱留置カテーテル、経鼻胃管からの解放～	菅原 英和	○	13	
			大学病院における排尿障害への取り組み	尾関 恩			
	7	ランチョン 13	南極越冬中に考えた漢方とリハビリテーション医療の重要性	及川 欧	○	13	
	8	ランチョン 14	仮想現実（VR）技術を用いたリハビリテーション治療の最前線	原 正彦	○	13	
	12	ランチョン 15	リハビリテーションにおける圧力波治療の可能性	緒方 徹	○	13	
12:50～13:50	1	特別 5	障害のある人々とともにつくるリハビリテーション医学	熊谷晋一郎	○	13,14-5,Re	○
	2	知と実践 14	脳卒中片麻痺のリハビリテーション治療 - 促通反復療法を基盤とした併用治療の新展開 -	下堂蘭 恵	○	13	
	7	教育 17	脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞治療の新たな展開	山下 敏彦	○	7,13,SS	
	12	スポンサード 2	シナプス生理学のトランスレーショナルメディシン	高橋 琢哉	○	1,13	
	13	教育 31	COVID19 患者のリハビリテーション診療	酒井 朋子	○	13,14-5	
	14	教育 39	消化器系とリハビリテーション医学・医療	三上 幸夫	○	13	
14:00～15:00	1	特別 6	進化形態学的視点による運動器の理解	遠藤 秀紀	○	1,13,Re	○
	2	知と実践 15	股関節疾患とリハビリテーション・スポーツ	中島 康晴	○	11,13,Re	○
	7	教育 18	Neurofeedback を用いたニューロモジュレーション技術の臨床応用に向けた取り組み	三原 雅史	○	13	
	12	教育 25	「アシスティブ・テクノロジー」導入による新たな作業療法介入の可能性	千島 亮	○	13,Re	○

【6月24日（金）】

時間	会場	種別	演題名	演者	リハ 単位	現地のみ申請可	
						日整会 単位	運動器
14:00～15:00	13	教育 32	慢性腰痛に対する多面的リハビリテーションとその手法	松平 浩	○	7,13,Re	○
	14	教育 40	末梢動脈疾患のリハビリテーション治療	安 隆則	○	13	
14:30～15:30	8	規定講習会 (医療制度と法律)	医療機関におけるコンプライアンス～大学病院の院内弁護士として	瀬尾 雅子	○		
15:10～16:10	1	知と実践 10	脳性麻痺のリハビリテーション医療	近藤 和泉	○	3,13,Re	○
	2	知と実践 16	排尿ケアにおける専門知と実践知の融合	井川 靖彦	○	13	
	7	教育 19	関節リウマチのリハビリテーション診療	酒井 良忠	○	6,13,R	○
	12	教育 26	脳卒中の予後予測に関する現状と課題	佐々木信幸	○	13	
	13	教育 33	慢性疼痛に対するリハビリテーション医療 —慢性疼痛診療ガイドラインのエビデンスに基づいて—	木村 慎二	○	13	
	14	教育 41	リハビリテーション医学における AI	木村 浩彰	○	13,14,5,Re	○
15:40～16:40	8	規定講習会 (地域医療)	地域医療と地域包括ケア	浜村 明德	○		○
16:20～17:20	1	知と実践 11	Virtual reality (VR) を利用したニューロリハビリテーション	道免 和久	○	13,14-5	
	2	海外 3	From Neuroplasticity to Stroke Rehabilitation	Jorge Manuel Costa Lains	○	1,13	
	7	教育 20	がんのリハビリテーション診療—過去から未来へ	辻 哲也	○	13	
	12	教育 27	希少腫瘍の集合体である骨・軟部腫瘍のリハビリテーション診療	西田 佳弘	○	5,13,Re	○
	13	教育 34	サッカー現場におけるメディカルサポートとスポーツ外傷予防研究	武富 修治	○	2,13,S	○
	14	教育 42	障害児の(リ)ハビリテーション診療 —成人期までのライフステージを見据えた対応—	小崎 慶介	○	3,13,Re	○
16:50～17:50	8	規定講習会 (両立支援(治療と仕事))	医療機関における治療と仕事の両立支援	佐伯 覚	○		
17:30～18:30	1	知と実践 12	内部障害リハビリテーション医学・医療のトピックス	上月 正博	○	13	
	2	海外 4	Neurorehabilitation: Future trends	Volker Hömberg	○	13	
	7	教育 21	分かってきたロコモとがんの大きな関係—ロコモががん患者の運命を変える?—	河野 博隆	○	5,13,Re	○
	12	スポンサード 3	痙縮に対する髄腔内バクロフェン投与 (intrathecal baclofen; ITB) 療法の適応・方法とその効果	三上 幸夫	○	13	
	13	教育 35	障がい者スポーツと運動器障害	西村 行秀	○	2,13,S	○
	14	教育 43	上肢形成不全児のスポーツとリハビリテーション診療	藤原 清香	○	10,13,Re	○

【6月25日（土）】

時間	会場	種別	演題名	演者	リハ 単位	現地のみ申請可	
						日整会 単位	運動器
8:30～9:30	1	知と実践 17	運動器の三次元動態データとそのリハビリテーション医療での活用	菅本 一臣	○	1,13,Re	○
	2	海外 6	Trajectory of Spastic Cerebral Palsy: Young to Old.	Heakyung Kim	○	3,8	
	7	教育 44	医療関係者に必要なロコモティブシンドローム関連の最新知識	帖佐 悦男	○	4,13,Re	○
	13	教育 51	Progress in Rehabilitation Medicine に論文を投稿しよう!～インパクトファクター獲得へ向けて～	百崎 良	○	13,14,5,Re	○
	14	規定講習会 (感染対策)	病院における感染予防対策	日野 太郎	○		○
9:40～10:40	1	知と実践 18	脊髄損傷の最新動向と先端リハビリテーション	島田 洋一	○	7,13,SS	○
	2	海外 7	Integration of Neuromuscular ultrasonography with Electrodiagnostic Medicine	Leonard Li	○	8,13	
	7	教育 45	メカニカルストレスによる骨組織の恒常性維持機構	田中 栄	○	1,4,Re	○
	13	教育 52	嚥下障害と食物形態	藤谷 順子	○	13	

【6月25日(土)】

時間	会場	種別	演題名	演者	リハ 単位	現地のみ申請可	
						日整会 単位	運動器
9:40～10:40	14	規定講習会 (医療経済(保険医療等))	医療と保険制度	近藤 国嗣	○		○
10:50～11:50	1	知と実践 19	プロフェッショナルとしての「障がい者スポーツ研究拠点」の実践	田島 文博	○	13,S	○
	2	海外 8	Progression in Cancer Rehabilitation toward the Decade of Healthy Ageing	Jae-Young Lim	○	13	
	7	海外 9	The changing landscape of dysphagia rehabilitation : Skill-based swallowing training	Maggie-Lee Huckabee	○	13	
	13	教育 53	リハビリテーション栄養とサルコペニアのトピックス	若林 秀隆	○	13,14-5, Re	○
	14	規定講習会 (医療福祉制度)	障害者総合支援法一制度利用のための知識の整理	高岡 徹	○		
12:10～13:10	2	ランチョン 16	装着型サイボグの臨床応用アップデート	羽田 康司	○	13,Re	
	3	ランチョン 17	摂食嚥下障害における医科歯科および多職種連携推進の取り組み	西村 行秀	○	13	
	4	ランチョン 18	集中治療室におけるリハビリテーションの戦略	笠井 史人	○	13	
	7	ランチョン 19	在宅リハビリテーション動画や入院前後に必要な情報を自動配信するスマートフォンアプリケーション —TKAでの導入と効果—	藤井 秀人	○	12,13,Re	
			PRP療法の治療効果をより引き出すための取り組みとして、スマートフォンアプリケーションを導入するという試み —費用対効果の向上を目指して—	清水 学			
	8	ランチョン 20	災害リハビリテーションの実際と義肢装具・福祉用具の対応	近藤 国嗣	○	13	
	12	ランチョン 21	超高齢社会の脊椎脊髄損傷 —新しいエビデンスを求めて—	筑田 博隆	○	7,13,SS	
	13	ランチョン 22	脳卒中後上肢麻痺に対するロボット療法のこれから	竹林 崇	○	13	
14	ランチョン 23	成人期の小児型低ホスファターゼ症(HPP)患者の診断背景と酵素補充療法導入 ～成人例に対する運動機能評価の試み～	西澤 公美	○	3,4		
		低ホスファターゼ症患者における運動機能評価の意義と実際 -低ホスファターゼ症合併脳性麻痺症例を通じて-	田村 太資				
13:20～14:20	1	特別 7	筋の加齢変化と筋力トレーニング	石井 直方	○	1,13,Re	○
	2	知と実践 23	地域医療とリハビリテーション医療	川手 信行	○	13	
	7	教育 46	歩行分析からみたリハビリテーション治療の効果	長谷 公隆	○	1,13,Re	
	13	教育 54	認知障害を有する高齢者における転倒予防	島田 裕之	○	13,Re	○
	14	規定講習会 (医療安全)	医療安全の最近の考え方	中島 勲	○		
14:30～15:30	1	知と実践 20	脳卒中後のリハビリテーション治療	安保 雅博	○	13	
	2	知と実践 24	リハビリテーション医療における膝関節障害	小林 龍生	○	12,13,S	○
	7	教育 47	スポーツによる脊髄損傷	三上 靖夫	○	2,7,SS	○
	14	規定講習会 (医療倫理)	臨床倫理の考え方と診療	藤島 一郎	○		
15:40～16:40	1	知と実践 21	痙縮とそのリハビリテーション治療	正門 由久	○	8,13,Re	○
	2	知と実践 25	重症 COVID-19 患者の急性期リハビリテーション医療と長期的機能障害	中村 健	○	13	
	7	教育 48	X-ray first 時代から US first 時代へのパラダイムシフト～再考、上肢疾患の診断と保存治療～	皆川 洋至	○	10,13,Re	○
	14	指導医講習会	新専門医制度における指導医の役割	緒方 直史	○		
16:50～17:50	1	知と実践 22	臓器移植とリハビリテーション医療	千田 益生	○	13	
	2	知と実践 26	脊髄損傷治療から見るリハビリテーション医学の広がり	緒方 徹	○	7,13,SS	○
	7	教育 49	トータルケアを意識した関節リウマチの最新治療	門野 夕峰	○	6,13,R	
	12	教育 50	リハビリテーションにおける歯科と言語聴覚士の連携：口腔内装置の利用について	西脇 恵子	○	13	
	14	指導医講習会	リハビリテーション科医師の病棟における役割	大高 洋平	○		